

株式会社Fujitakaは  
未来ある学生を応援しています!



株式会社 Fujitaka

本社:京都市下京区東塙小路町606  
三旺京都駅前ビル7階  
TEL:075-371-9900(大代表)  
<https://www.fujitaka.com>  
従業員数:271名(2025年9月末時点)  
設立:1975年1月10日

主な事業内容:省力化機器製造・販売・設置・修理、  
コインランドリー事業提案、機器販売、分煙機器販  
売、福祉機器販売・メンテナンス、商業施設設計・施  
工、ドローンスクール運営など



#### JOB INFORMATION

##### 正社員募集

『おっちゃんとおばちゃん』の求人広告を見て応募です」とお伝えください。



文理不問

専門学校  
卒業生歓迎

【職種】■営業職:システム関連 事業化提案 分煙提案  
店舗連携等 ■技術職:フィールドエンジニア/ソフトエンジニア(いずれも文系出身者活躍中)設計 施工等 ■事務職:  
人事総務・経理会計・企画  
【応募資格】高卒以上、普通運転免許

【給与】大卒初任給 220,000円 短大、専門卒初任給 196,000円

【昇給】年1回、賞与年2回

【諸手当】通勤手当、扶養手当、住宅手当、資格手当、役付手当、単身手当、職務手当、赴任手当

【勤務地】京都、大阪、東京、名古屋、福岡他

【勤務時間】9:00~18:00(実働8時間)

【休日】完全週休2日制(年間125日 有給休暇取得日5日含む)

【福利厚生】借上独身寮制度、企業独自の医療費扶助制度、資格取得支援制度、退職金制度

【連絡先】株式会社Fujitaka  
(人事総務課 西野・安原 ☎075-366-9954)

E-Mail:natsu-yasuhara@fujitaka.com

新卒採用を目的とした広報活動は、その年の内閣府提示の日程に準じます(例・広報活動開始は卒業・修了年度に入直前の3月1日以降)。「在学中のみなさんが今何年生なのか」に応じて、時期によりお伝えすべき情報は変わります。詳細は人事部に直接お問い合わせください。

**修士2年 植平 隆暉さん**

生物の多様性を研究。今年は三重県藤原岳の山道にカメラを10台所設置し、シカの相対密度を調査。「花の百名山」でもある藤原岳の希少な植物を守る対策やアプローチ方法を議論するためにデータを集積中。

**学部4年 奥戸 祐貴さん**

高山植物への登山者の意識変容を研究。「侵入禁止看板」やロープを張るといった規制ではなく、行動経済学のナッジ理論(罰則を用いて人々の行動を導く手法)を用いて、人々の自然愛護の意識を高める仕掛けを考案中。

**修士1年 三鬼 裕泰郎さん**

生態系保全を専門職と一般市民が一緒に実行する未来を目指して、スマホアプリを使った、市民の意識変容の研究をしている。アプリ開発には情報理工学部とも協働。「意識はあっても行動につながらない、変わらなければいけない」と語る。

**修士2年 富岡 瑞加さん**

国税として1人毎年1000円払っている「森林環境譲与税」の使われ方に注目。間伐や人材育成がその主な用途とされるが、その妥当性を研究する。「グリーンインフラを推進するような、使われる挑戦をしています」。

西田研究室では、今年は山岳調査のためにドローンを3機購入したが、まだ活用しきれていないと話す。それに対して、株式会社Fujitakaは、5年前から「ドローンパイロットスクール」を運営、飛行講習ほか、測量や物流、農業、建築土木、防災といったドローン事業の実演や業務も請負う。菊田さんは、「深い山や高いビルなど、人が行くことが難しい空間を撮影し、物資運搬など人力軽減にも大きな力を發揮するのがドローンです」。

同席した株式会社Fujitakaの竹鼻さんは、ドローン事業課主任・スクールの教官だ。太陽光発電のメンテナンスにもドローンが活用されている実績を紹介する。

菊田さんはこう話す。

「西田先生のお話で、グリーンインフラという、ワクワクするような事業モデルのヒントをいたしました。次回はぜひ弊社のドローンスクールでの体験を、研究に役立てたいと目を輝かせます。」



【後列左から】株式会社Fujitaka 事業統括本部ドローン事業課主任・竹鼻美咲さん、取締役 店舗事業本部長・菊田さん、経営管理部人事総務課・安原梨都さん  
【前列左から】奥戸さん、三鬼さん、植平さん

## Fujitaka 大学レポート

# グリーンインフラを研究する

## 京都産業大学 生命科学部を訪問!

ものづくりメーカー&商社である株式会社Fujitaka。10月に京都産業大学生命科学部の西田貴明先生の研究室を訪問し、グリーンインフラとビジネスについて語った。



株式会社 Fujitaka  
取締役 店舗事業本部長  
菊田 資士さん

西田先生はグリーンインフラ(下図参照)についてこう話す。  
「いま全国的に過疎化による森林の荒廃、農地の放棄、頻発する豪雨災害など、自然と人に関するさまざまな問題が起きています。その解決策として注目されるのが、自然の機能を活用した環境整備や土地利用を考えるグリーンインフラ政策です」。

西田先生の経歴は異色だ。京都大学

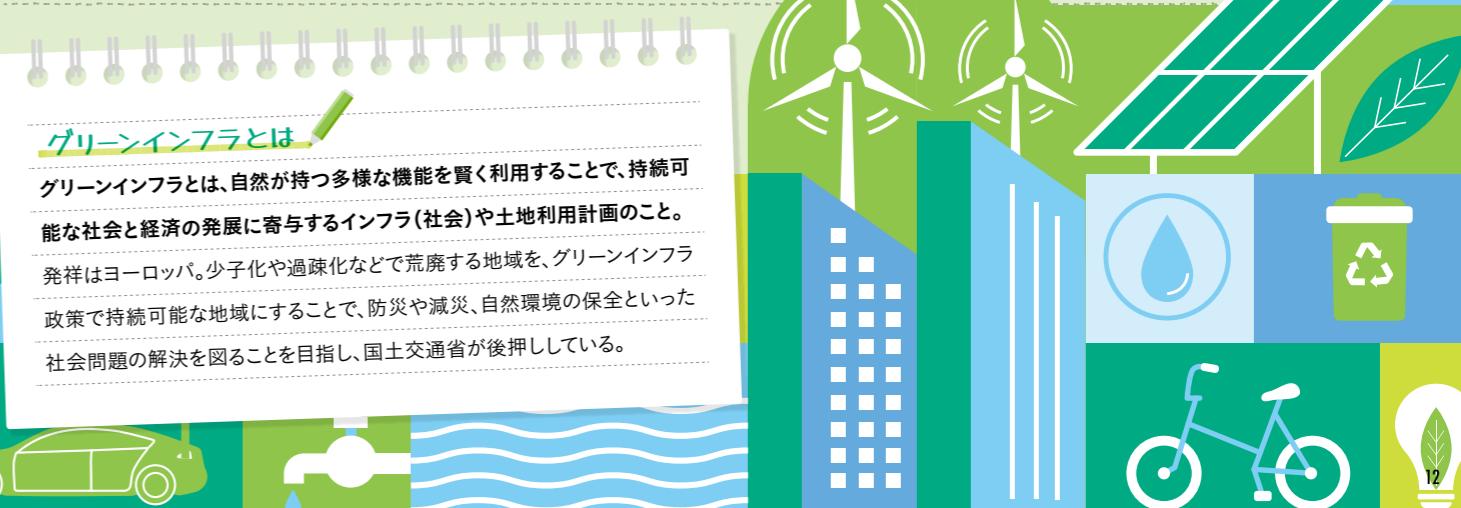
西田先生はグリーンインフラ政策で、飲食店の券売機やテーマパーク施設の入退場ゲート機、商店街のアーケードなどを商業・公共空間をプロデュースする「ものづくり」の総合商社だ。木造建築の「インランドリー」や太陽光発電などSDGsに配慮した製品も扱い、環境事業に造詣が深い。株式会社Fujitakaからは菊田さん、安原さん、竹鼻さんの3人が研究室を訪問、西田先生と学生4人が迎えた。

自然と人に関する問題、解決策としてのグリーンインフラ



京都産業大学  
生命科学部 産業生命科学科  
教授  
西田 貴明さん

西田先生は「取り組みを持続可能にするためには、経済・市場の視点が不可欠です。現在は生物多様性の保全のための調査段階ですが、社会実装を先導、社会課題を解決していくのが、いいな」と語る。西田先生は「グリーンインフラという着眼に、ビジネスの可能性を感じました」と絶賛。西田先生は「取り組みを持続可能にするためには、経済・市場の視点が不可欠です。現在は生物多様性の保全のための調査段階ですが、社会実装を先導、社会課題を解決していくのが、いいな」と意気込みを語る。



### グリーンインフラとは

グリーンインフラとは、自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラ(社会)や土地利用計画のこと。発祥はヨーロッパ。少子化や過疎化などで荒廃する地域を、グリーンインフラ政策で持続可能な地域にすることで、防災や減災、自然環境の保全といった社会問題の解決を図ることを目指し、国土交通省が後押ししている。